

V 訓練実施成果

単位制訓練の成果は、習得MU数、就職状況によって評価することが考えられる。

ここでは、このほか、調査に基づく指導員の評価を含めて説明することとする。

(1) 習得MUの数

訓練施設の計画MUに対する習得率について、59年度の調査結果からみると、1訓練科当たりの計画MU数27に対し、習得MU数は25で、92.6%の習得率である。計画MU数の中には、必修MUのほかに選択MUが含まれているので、この習得率はかなり高いといえる。

訓練科別のMUの習得状況は、表35のとおりである。

表35 訓練科別習得MU数

訓練科	計 画			習 得			習 得 率 % 平均MUについて
	平均 ⁽¹⁾	最少	最多	平均 ⁽¹⁾	最少	最多	
溶接科	35	20	51	32	24	36	91.4
板金科	42	35	56	42	41	43	100.0
配管科	44	32	57	43	37	45	97.7
縫製科	25	21	31	23	11	29	92.0
塗装科	20	14	26	17	14	19	85.0
家庭用電気機器サービス科	19	—	— ⁽²⁾	19	17	21	100.0
ブロック建築科	19	13	24	18	14	21	94.7
造園科	39 ⁽³⁾	—	—	39	37	43	100.0
機械科	27	18	36	24	11	28	88.9
木工科	22	17	27	15	13	17	68.2
家政科	14 ⁽³⁾	—	—	14	14	14	100.0
経理事務科	41	24	59	34	25	40	82.9
販売科	15 ⁽³⁾	—	—	14	12	15	93.3
タイル施工科	19 ⁽³⁾	—	—	14	9	18	73.7
家屋営繕科	34 ⁽³⁾	—	—	30	28	32	88.2
建築設備管理科	17	17	54	22	19	26	129.4
平 均	27			25			92.6

(注) (1) 「平均」MU数は、施設で計上した全MUを施設の数で割ったものである。

- (2) 2施設のうち、1施設が独自のMUのため、除外している。
- (3) 計画欄のうち、「平均」の数のみの科は、実施が1施設のみの場合である。

(2) 就職状況

58年度の就職状況からみると、一般の能力再開発訓練よりも高い率で、約80%が就職している。これは、高年齢層の就職難といわれているなかで、雇用可能な技能を中心とした単位制訓練の成果とみてよいであろう。

なお、関連職種への就職は、自営を含め、77%である。

就職の決定時期は、61%が訓練後期（前期、中期、後期のうち）に決定し、修了後の決定が34%である。

入校前や訓練の前期、中期での決定は5%と少ない。なお、前期、中期に就職が決定した場合は、就職先のニーズに合わせたMESによる訓練を行って、職場への適応に役立てている。

(3) 単位制訓練に対する指導員の評価

59年度の調査結果によれば、単位制訓練実施施設の指導員による自己評価は、表36のとおりである。

同表から、単位制訓練の特色を生かした訓練の効果として、次のことがいえる。

i 訓練生ごとに設計される訓練によって、訓練生一人ひとりへの対応が適切にできる。また、このことによって、訓練生の学習意欲を高めることができる。（表36・①②③④⑤）

ii MES編成によって、応用能力を養うことができる。（表36・⑩）

iii 訓練生の自発的な学習による指導員の負担軽減によって、訓練生一人ひとりに目の届く指導ができる。（表36・⑫⑬）

iv MUごとの確認試験によって、その都度、適切な指導ができる。

（表36・⑫⑬）

V 訓練生が、学習経験をしながら指導を受けることによって、学習の密度が濃くなり、習得度が高まる。(表36・⑮⑰⑱)

表36 単位制訓練に対する指導員の評価

N: 79 訓練科

